

講義名	情報社会論			
担当教員	佐藤 彰宣			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要
 情報化社会の到来が語られて久しい。では、インターネットやSNSなどの新たな情報技術（デジタルメディア）は、現代社会のなかでどのように生み出され、人々にいかなる影響を与えてきたのだろうか。本講義では、多様な事例を通して、現代社会と情報技術（デジタルメディア）の関係を社会学の視点から読み解く。

到達目標

- ・現代社会における情報技術（デジタルメディア）の特性を説明することができる。
- ・社会と情報技術の関わりを通して、社会学の視点や諸概念を理解する。
- ・情報技術（デジタルメディア等）と結びついた社会現象を社会学の視点から分析することができる。

（なお原則、対面での実施とするが、新型コロナウイルス感染症の状況に応じては変更する場合もある。）

提出課題

授業内で随時レポートを課す。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付ける。自学自習の提出は任意であるが、内容と提出回数に応じて評価に加点する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業内で適宜コメント・応答し、授業内容に反映する。

評価の基準

レポートでは、 授業内容についての基礎的な内容理解が達成されているか、 授業から理解した視点や概念を用いて、自ら情報社会にまつわる諸現象について考察できているかについて問う。

履修にあたっての注意・助言他

日常生活のなかでも情報技術や情報社会に関する情報や知識を積極的に集めておくことで、授業内容についての理解もより深まることが期待される。

教科書				

プリント資料及び参考文献

適宜レジュメを配布する。参考文献は自らのなかで別途案内する。

授業計画

- 1.授業の導入：「情報社会」、「デジタルメディア」とは何か
- 2.情報メディアの系譜（1）：総力戦体制におけるコンピューターの誕生
- 3.情報メディアの系譜（2）：冷却構造でのインターネットの実用化
- 4.消費社会における「情報」：「ゆたかな社会」の到来、「差異への欲求」のための消費
- 5.インターネットと情報収集：ブルメディアとブッシュメディア、集団分極化
- 6.ウェブのアーキテクチャ：「人気投票」としてのページランクと「島宇宙」
- 7.監視社会と情報システム：メディアと権力関係、ビッグデータと「既読」文化
- 8.インターネットと政治的公共性：メディアと民主主義、世論と輿論
- 9.SNSと流言：ハニツクのメディア史（開業大震災からオイルショック、コロナ騒動まで）
- 10.SNSとつながり：情報社会の社会関係資本、「強い紐帯の強さ」と「趣味縁」
- 11.グローバル化とソフトパワー：「クールジャパン」のポリディクシム
- 12.情報社会の文化（1）：情報技術と「みるスポーツ」、BSCSから動画配信サービスへ
- 13.情報社会の文化（2）：映画鑑賞のメディア論（映画館・ビデオ・サブスクリプション）
- 14.情報社会の文化（3）：デジタルメディアと観光、情報社会の「疑似イベント」
- 15.授業の総括：技術決定論を超えて情報社会を読み解くための視点

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

情報社会に関する社会学の体系的な知識を身につけるためには、講義内容についての復習（レジュメおよび参考書に目を通す）をぜひ行ってほしい。また学生の主体的な取り組みとして自学自習を常に受け付ける（週に4時間以上）。講義内容に関する新聞・雑誌記事についてのレポート、関連書籍の書評など自習の成果の提出を受け付け、評価に加点する。様式は自由であるが、必ず出典を明記すること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

現代の情報社会のあり方やその成立過程について考える本科目は、卒業認定・学位授与の方針として示されている「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のなかでも、特に「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」などを養うことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポート課題の提出などは、ポータルサイト「Ryuka Portal」を通して行う。オンライン授業についての参加方法についても、Ryuka Portalで案内する。また授業内では情報社会の動向をより分かりやすくイメージしてもらうために、レジュメだけでなく映像資料も積極的に使用する。情報技術と社会がどのような関係にあるのかを意識しながら、映像資料（情報社会に関するドキュメンタリーや映画など）を視聴することで、講義内容への理解がより深まることが期待される。

実務経験の有無及び活用

備考